

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
加藤 宏			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-160803-0	2人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生は調査企画・設計、文献・資料の収集・検討、対象への参与観察および聞き取り、調査データの分析・報告、報告書作成、原稿編集を担当した。実習の一連のプロセスは問題なく進行し、新しい発見なども含む報告書が完成した。実習生の人数が少ないこともあり、時間の不足を感じた。具体的なデータ収集を充実させるための2次調査ができなかったことが残念であった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

新しいカフェ文化 - コンセプトカフェの現在

2. 調査の内容／概要：

2000年代に起こったカフェブーム以降、カフェは定着したが、2010年代に入り、都内でチェーン系のカフェ以外に様々なコンセプトを持つ「コンセプトカフェ」と語られる空間が見受けられ、若者を中心に受け入れられるようになってきた。私たちは、そのなかでもアニメ等のキャラクターを空間の中心にしたサブカルチャーの要素を含むカフェを調査の対象とした。そうしたカフェがどのような文化的背景を持って登場したのか、どのような可能性と楽しみを運営者と利用者にもたらしているのかを探った。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

2010年代に生れた新しいカフェ文化／都内の「コンセプトカフェ」へのフィールドワーク、「コンセプトカフェ」の運営スタッフ1名と「コンセプトカフェ」のファン3名にインタビューを実施（調査対象の特質および利用動向をさぐるため）

4. 主な調査項目：

コンセプトカフェの特質、運営側の思惑や戦略、ファンの楽しみ方、コンセプトカフェが成立する背景など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

参与観察、聞き取り調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

7月から11月にかけて都内（表参道、池袋、秋葉原など）にて参与観察を実施し、またファンおよび運営者への聞き取りを実施した。調査員は2名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

収集したデータの量は十分とはいえないが質的には特徴を導き出しており、ある程度成功している。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

参与観察、聞き取り調査の内容分析

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

「コンセプトカフェ」は「キャラ萌え」と「聖地巡礼」といった90年代以降の文化実践をよりカジュアルに体験したい若い消費者と東京の飲食業界は「すでに飽和している」と考える資本の差異化への欲望が生み出した空間である。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.33』2017年3月発行。